

富士見市防災環境カルテ
南畑第5町会

位置番号 31

・概況

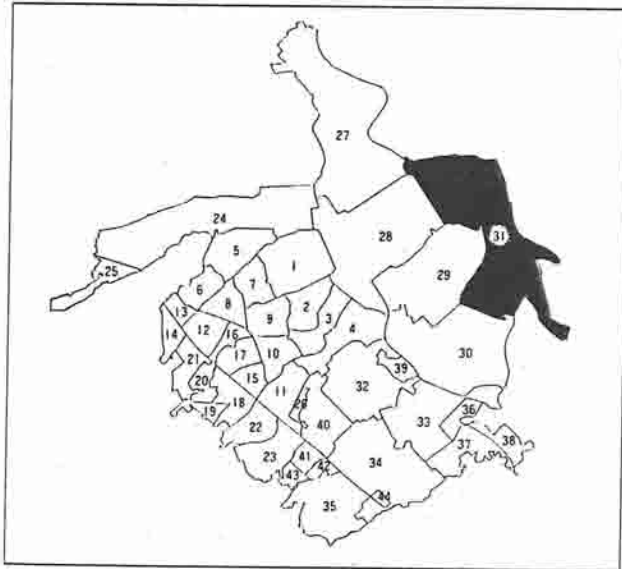
南畑第5町会は富士見市の北東部に位置し、北側はびん沼川（旧荒川）を含む水田地帯（氾濫平野）と小高い所（自然堤防）、東側は荒川に面した水田地帯（氾濫平野）、西側は水田地帯（氾濫平野）と小高い所（自然堤防）の集落で形成されている。

環境は、田園に囲まれた良好な地域である。荒川の河川敷には、富士見市運動公園、大井町運動公園、ゴルフ場があり、運動施設が集中している。

水害は、水害履歴から灌漑用水路や南畑大排水路からの溢水のため、水田地帯で冠水の被害を受ける内水災害が予想される。水防施設は、南畑排水機場が建設され、災害予防の役割を果たしている。

地震災害は、軟弱地盤のため、小高い所（自然堤防）の木造建物の倒壊及び水田地帯、河川敷で液状化による被害が予想される。

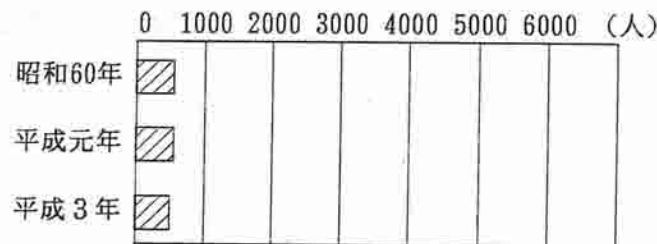
・位置図



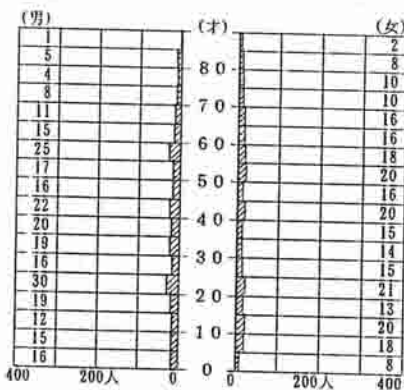
1. 基礎指標

・面積	1.796 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	254人
女	241人
計	495人
・人口密度	275.6人/km ²
・寝たきり老人数	2人
・ひとり暮らし老人数	1人
・世帯数	124世帯

・人口推移



・年齢別人口(平成3年)



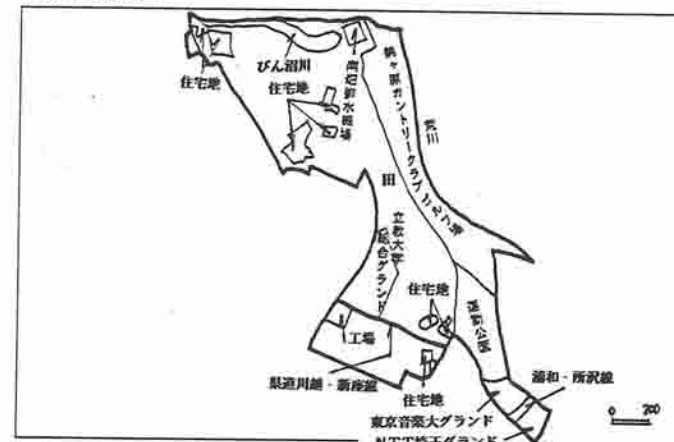
・商住工混在率住居系	90.0%
店舗系	0.5%
工業系	9.5%

富士見市防災環境カルテ

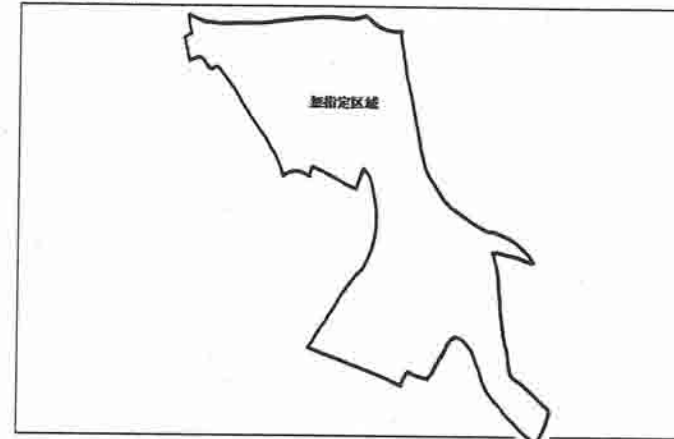
南畑第5町会

位置番号 31

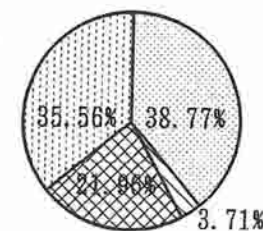
・町会現況図



・用途地域図



・土地利用現況



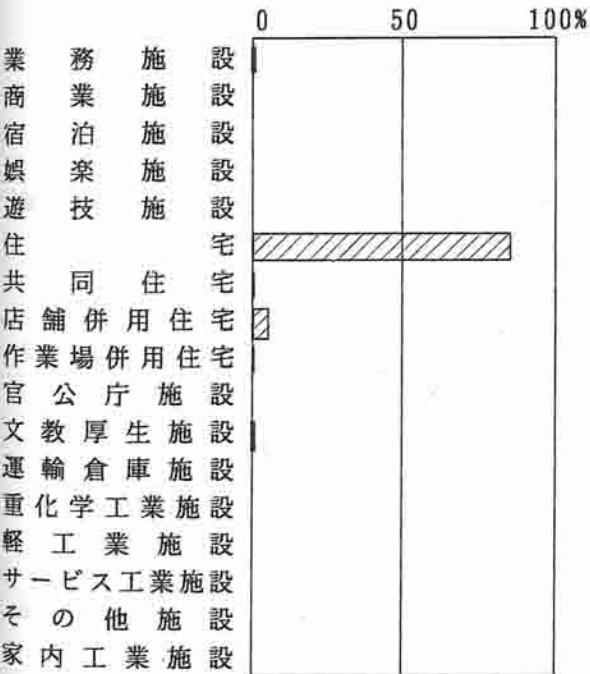
土地利用凡例

農地
山林・原野
市街地(宅地)
空地
その他

2. 建物指標

・建物棟数	368棟	
・木造建物	319棟	
・非木造建物	49棟	
・建物面積	30,003.38㎡	
・木造建物	19,845.01㎡	
・非木造建物	10,158.37㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	87.5%	
・木造率	86.7% (319棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	155棟	
・同上率	48.6%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	253棟	79.3%
2階以上	66棟	20.7%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	53本	29.5本/㎢
・幹線道路率	5本	2.8本/㎢
・公共空地面積	89,700.0㎡	
・公共空地率	5.0%	
・1人あたり公共空地	181.2㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 富士見市運動公園	89,700.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	15本
・1消火栓あたり世帯数	8.3世帯/本
・消防水利貯水施設数	3 (1) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・ <u>屋内</u> ・屋外(タンク)貯蔵所	1か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年) 0件			
・火災出火件数(年 ~ 年) 0件			
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	0戸		
家屋半壊	0戸		
被害率	0%		

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医 院	0か所	
休日診療所	0か所	
警 察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	6か所	提根樋管 新砂原樋管 志戸樋管 葭原樋管 水防倉庫 南畑排水機場
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

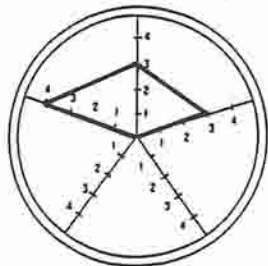
・内水災害危険度	3ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	3ランク
・木造建物出火危険度	0ランク
・木造建物延焼危険度	0ランク

地盤危険度	地盤の地震動危険度	4ランク
危険度	液状化危険度	自然堤防 3 4ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 6(+) (烈震(強))

9. 地盤条件

地盤は、10~30mの沖積層の軟弱地盤のため、小高い所(自然堤防)にある集落で震度6(-)(烈震の弱い方)、水田地帯(氾濫平野)で震度6(+)(烈震の強い方)の地震が予想される。

10. 問題点の整理

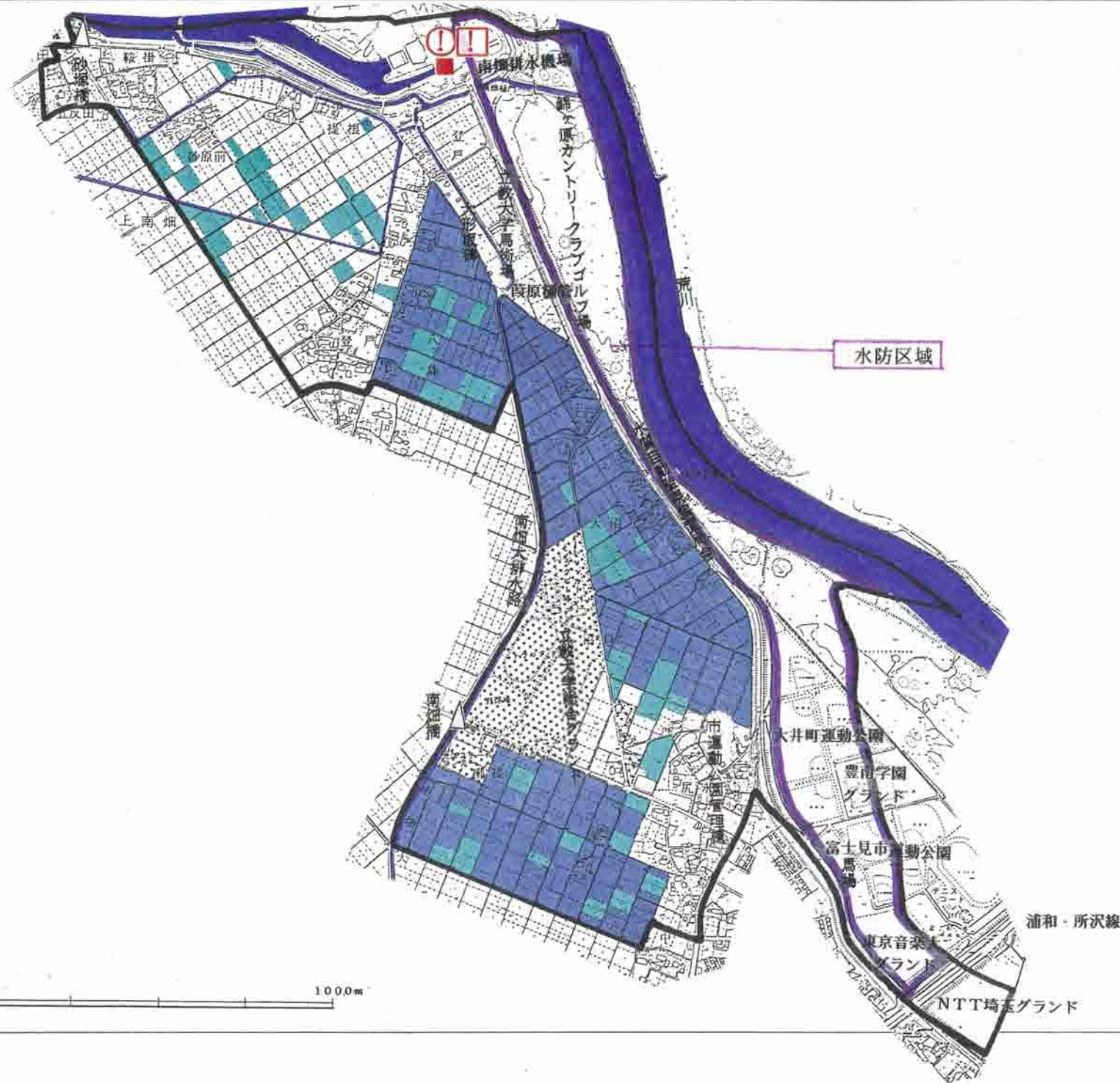
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	灌漑用水路、南畑大排水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は、新砂原樋管、提根樋管、登戸樋管、志戸樋管、葭原樋管、水防倉庫、南畑排水機場が設置されている。
2. 外水災害	少ない。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため、木造建物の倒壊に対して注意を要する。	3. 消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。
4. 出火危険	出火の危険性は低い。	4. 防火能力	集落の木造家屋の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が100%と高いため延焼の危険性は無い。	5. 避難収容力	指定避難所は、富士見市立養護学校、県立富士見高校(南畑第2町会)を共用する。
6. その他の災害	水田地帯は、軟弱地盤のため、液状化の危険性がある。		

11. 解決の方向性

内水災害の予防対策としては、灌漑用水路からの溢水を防止するため、南畑大排水路や主要灌漑用水路に水防施設の設置(貯水池、遊水池等)が望ましい。

地震災害の危険性は、液状化が予想される水田地帯で大きい。水田作業以外の用途で使用している建物は、建物のまわりに砕石を主材料とした排水溝や地中に連続壁や矢板などを設けて、液状化から建物の倒壊被害を防ぐ液状化対策が望まれる。避難可能な道路は、十分な幅員とはいえない。したがって、集落沿いの自動販売機の転倒、ブロック塀の倒壊による道路の狭隘化を防ぐため、これら転倒、倒壊の予防対策の指導を行うことが望ましい。

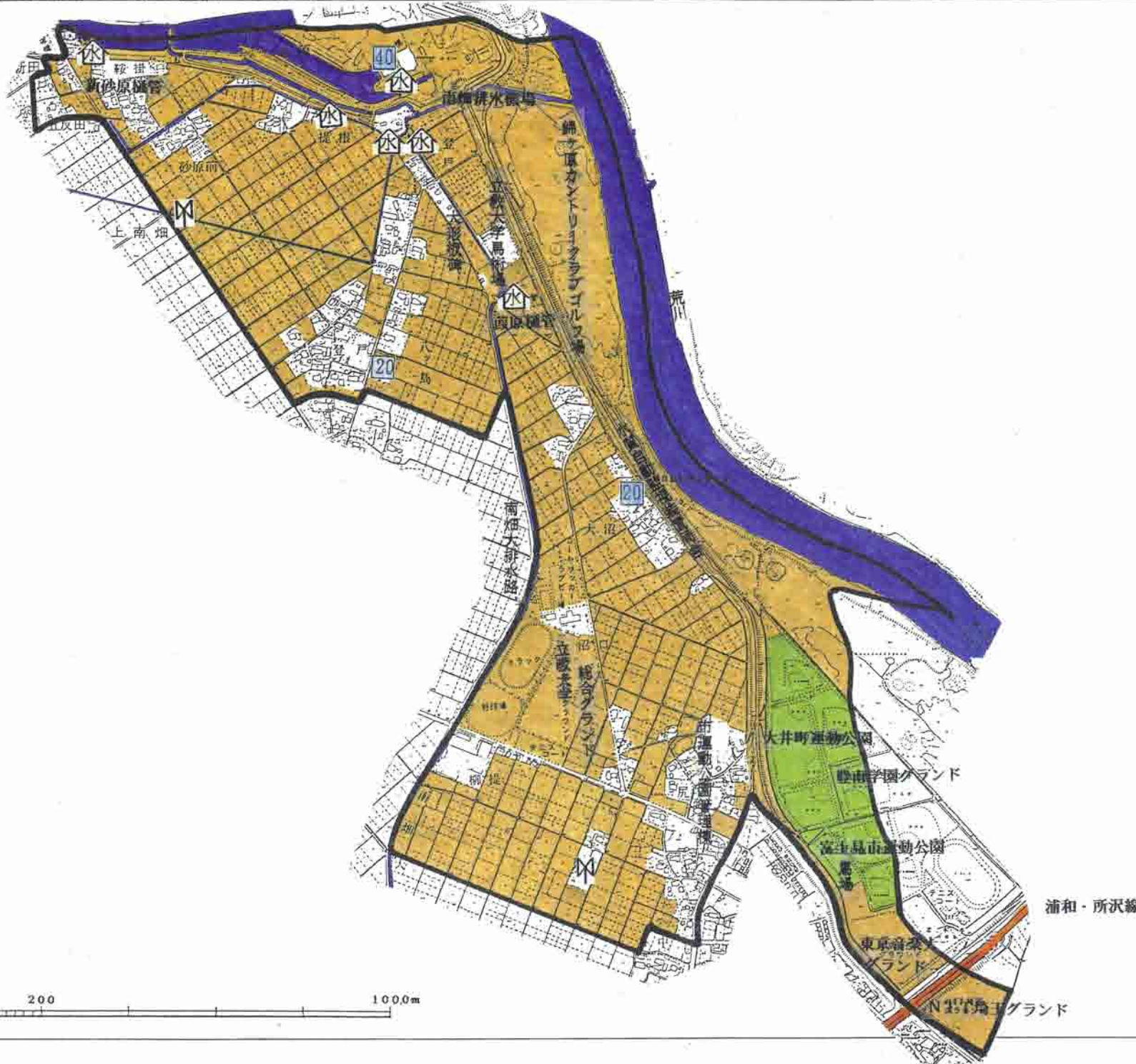
防災現況図 A (災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊕	危険物屋内タンク貯蔵所
⊖	危険物屋外タンク貯蔵所
Ⓜ	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
□	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域

防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

0 200 1000m

